

神奈川県地域医療介護総合確保基金事業費補助金（医療分）交付要綱

（趣旨）

第1条 この要綱は、医療介護総合確保促進法に基づく神奈川県計画（以下「県計画」という。）に定める事業について、交付対象者が行う事業に要する経費に対し、予算の範囲内において補助金を交付することについて、地域医療介護総合確保基金管理運営要領（平成26年9月12日医政発0912第5号厚生労働省医政局長通知、老発0912第1号厚生労働省老健局長通知及び保発0912第2号厚生労働省保険局長通知）及び補助金の交付等に関する規則（昭和45年神奈川県規則第41号。以下「規則」という。）に規定するもののほか、必要な事項を定めるものとする。

（補助の対象）

第2条 補助の対象とする事業は、県計画に基づき、別表1の事業区分ごとに、事業者が実施する次の事業とする。

- (1) 在宅歯科診療所設備整備事業
- (2) 医師等確保体制整備事業
- (3) 産科等医師確保対策推進事業
- (4) 病院群輪番制運営費
- (5) 在宅歯科研修費
- (6) 看護師等養成支援事業
- (7) 院内保育所支援事業
- (8) 新人看護職員研修事業
- (9) 歯科衛生士・歯科技工士人材養成確保事業
- (10) 在宅医療（薬剤）推進事業費補助
- (11) 薬剤師復職支援事業費補助
- (12) 精神科医療強化事業費
- (13) 在宅医療施策推進事業
- (14) 在宅歯科医療連携拠点運営事業
- (15) 緩和ケア推進事業
- (16) 病床機能分化・連携推進基盤整備事業
- (17) かかりつけ歯科医普及定着推進事業
- (18) がん診療口腔ケア推進事業
- (19) 産科医師確保支援事業
- (20) 訪問看護師離職防止事業
- (21) 精神科看護職員研修事業

（補助額の算出方法等）

第3条 補助額は、次により算定する。

- (1) 別表2の事業区分ごとに、基準額と補助対象経費の実支出額とを別表1の交付対象者ごとに比較して少ない方の額を選定する。

- (2) (1)により選定した額と総事業費から寄付金その他の収入額を控除した額とを比較して少ない方の額に別表第2の補助率を乗じて得た額（算定された額に1,000円未満の端数が生じた場合には、これを切り捨てた額）を補助額とする。

(申請書の提出期日等)

第4条 補助金の交付の申請をしようとする者は、補助金交付申請書（様式1）に別に定める様式を添えて、知事が別に定める期日までに提出するものとする。

2 補助金の交付を受けようとする者は、前項の申請を行うにあつて、消費税及び地方消費税を補助対象経費とする場合にあつては、当該補助金に係る消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額（補助対象経費に含まれる消費税及び地方消費税相当額のうち、消費税法（昭和63年法律第108号）に規定する仕入れに係る消費税額として控除できる部分の金額及び当該金額に地方税法（昭和25年法律第226号）の規定による地方消費税の税率を乗じて得た金額の合計額に補助対象経費に占める補助金の割合を乗じて得た金額をいう。以下同じ。）を減額して交付申請するとともに、その計算方法や積算の内訳等を記載した書類を申請書に添えて提出しなければならない。ただし、申請時において当該補助金に係る消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額が明らかでないものについては、この限りではない。

(暴力団排除)

第4条の2 神奈川県暴力団排除条例第10条の規定に基づき、申請者が次の各号に該当する場合は、補助金交付の対象としない。

- (1) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第2条第6号に規定する暴力団員
- (2) 暴力団員による不当な行為の防止等に関する法律第2条第2号に規定する暴力団
- (3) 法人にあつては、代表者又は役員のうち第1号に規定する暴力団員に該当する者があるもの
- (4) 法人格を持たない団体にあつては、代表者が第1号に規定する暴力団員に該当するもの

2 知事は、必要に応じ補助金等の交付を受けようとする者又は補助金の交付を受けた者（以下「補助事業者」という。）が、前項各号のいずれかに該当するか否かを神奈川県警察本部長に対して確認を行うことができる。

ただし、当該確認のために個人情報を神奈川県警察本部長に提供するときは、神奈川県警察本部長に対して当該確認を行うことについて、当該個人情報の本人の同意を得るものとする。

3 知事は、補助事業者が第1項各号のいずれかに該当するときは、交付決定の全部又は一部を取り消すことができる。

(交付条件)

第5条 規則第5条の規定による条件は、次のとおりとする。

- (1) 事業を実施するために必要な調達を行う場合には、原則として一般競争入札によるものとする。
- (2) 補助事業の内容又は経費配分の変更をしようとする場合は、すみやかに知事の承認を受けなければならない。ただし、経費の20%以内の変更については、この限りでない。
- (3) 補助事業を中止し、又は廃止しようとする場合は、すみやかに知事の承認を受けなければならない。

(4) 補助事業が予定の期間に完了する見込みのない場合若しくは完了しない場合又は補助事業の遂行が困難となった場合は、すみやかに知事に報告し、その指示を受けなければならない。

(5) 補助事業者は、補助事業に係る関係書類の保存については、次のとおりとする。

ア 補助事業者が地方公共団体の場合

補助事業に係る予算及び決算との関係を明らかにした調書を作成するとともに、補助事業に係る歳入及び歳出についての証拠書類を事業の完了の日（事業の中止又は廃止の承認を受けた場合には、その承認を受けた日）の属する年度の終了後5年間保管しておかなければならない。

イ 補助事業者が地方公共団体以外の場合

補助事業に係る収入及び支出を明らかにした帳簿を備え、かつ、当該収入及び支出についての証拠書類を事業の完了の日（事業の中止又は廃止の承認を受けた場合には、その承認を受けた日）の属する年度の終了後5年間保管しておかなければならない。

また、証拠書類等の保存期間が満了しない間に補助事業者が解散する場合は、その権利義務を承継する者（権利義務を承継する者がいない場合は知事）に当該証拠書類等を引き継がなければならない。

(6) 補助事業により取得し、又は効用の増加した財産で価格が単価50万円以上（事業者が地方公共団体以外のもの場合は30万円以上）の機械、器具及びその他の財産については、減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和40年大蔵省令第15号）に定める期間を経過するまで、知事の承認を受けなくてこの補助金の交付の目的に反して使用し、譲渡し、交換し、貸し付け、担保に供し、取り壊し又は廃棄してはならない。

(7) 知事の承認を受けて財産を処分することにより収入があった場合には、その収入の全部又は一部を県に納付させることがある。

(8) 補助事業により取得し、又は効用の増加した財産については、補助事業完了後においても、善良な管理者の注意をもって管理するとともに、その効率的な運用を図らなければならない。

(9) 補助事業を行うために建設工事の完成を目的として締結するいかなる契約においても、契約の相手方が当該工事を一括して第三者に請け負わせてはならない。

(10) 補助事業者が規則第2条第4項に規定する間接補助金等を交付する場合は、同条第6項に規定する間接補助事業者等に対し、第13条と同一の条件を付さなければならない。

(11) 補助事業者は、この補助金の交付と対象経費を重複して、他の法律又は予算制度に基づく国又は県の負担又は補助を受けてはならない。

(12) その他、規則及びこの要綱の定めに従わなければならない。

(変更の承認)

第6条 前条第2号から第4号の規定に基づく知事の承認を受けようとする場合は、補助金変更交付申請書（様式2）に別に定める様式を添えて、又は事業変更（中止、廃止）承認申請書（様式3）に変更の内容及び理由又は中止、廃止の理由を記載した書類を添付して知事に提出するものとし、この提出は毎年度2月末日を最終期限とする。

(申請の取り下げのできる期間)

第7条 規則第7条第1項の規定により申請の取り下げのできる期間は、交付の決定の通知を受理し

た日から10日を経過した日までとする。

(状況報告)

第8条 補助事業者は、知事の要求があったときは、補助事業の遂行状況について、事業実施状況報告書（様式4）により知事に報告するものとする。

(実績報告)

第9条 規則第12条の規定による実績報告は、事業実績報告書（様式5）に別に定める様式を添えて、事業完了の日から起算して1か月を経過した日（第7条により事業の中止又は廃止の承認を受けた場合には、当該承認通知を受理した日から起算して1月を経過した日）又は翌年度4月5日のいずれか早い日までに知事に報告するものとする。

2 消費税及び地方消費税を補助対象経費とする場合にあつては、補助事業者は、前項の実績報告書を提出するにあつて、当該補助金に係る消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額が明らかな場合には、これを補助金額から減額して報告するとともに、その計算方法や積算の内訳等を記載した書類を報告書に添えて提出しなければならない。

(消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額の確定に伴う補助金の返還)

第10条 消費税及び地方消費税を補助対象経費とする場合にあつては、補助事業者は、実績報告後に消費税の申告により当該補助金に係る消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額が確定した場合には、消費税及び地方消費税に係る仕入控除税額報告書（様式6）により、すみやかに知事に対して報告しなければならない。なお、補助事業者が全国的に事業を展開する組織の支部又は一支社及び一支所等であつて、自ら消費税及び地方消費税の申告を行わず、本部又は本社及び本所等で消費税及び地方消費税の申告を行っている場合は、本部の課税売上割合等の申告内容に基づき報告を行うこと。

2 知事は、前項の報告があつた場合には、当該消費税及び地方消費税仕入控除税額の全部又は一部の返還を命ずるものとする。

(届出事項)

第11条 補助事業者は、次の各号のいずれかに該当するときは、すみやかに文書をもってその旨を知事に届け出なければならない。

- (1) 住所又は氏名を変更したとき。
- (2) その他申請内容に変更があつたとき。

(書類の経由)

第12条 規則及びこの要綱の規定により書類を知事に提出する場合は、事業所管課を経由しなければならない。

附 則

この要綱は、平成26年12月25日から施行する。ただし、次に掲げる事業については、平成26年4月

1日から適用する。

事業区分	細々事業名
3 産科等医師確保対策推進事業	
(1) 産科医師等分娩手当補助事業	・産科医師等分娩手当補助（市町村） ・産科医師等分娩手当補助（民間）
(2) 産科等後期研修医手当補助事業	・産科等後期研修医手当補助（市町村） ・産科等後期研修医手当補助（民間）
4 病院群輪番制運営費	
(1) 小児救急医療支援事業	・病院群輪番制運営費補助（小児）
(2) 小児救急医療拠点病院運営事業	
6 看護師等養成支援事業	
(1) 看護師等養成所運営費補助事業	・看護師等養成所運営費補助（国庫対象） ・厚木看護専門学校運営費補助（国庫対象）
7 院内保育所支援事業	
(1) 院内保育事業運営費補助事業	・院内保育事業運営費補助（国庫対象） ・院内保育事業運営費補助（公的病院） ・総合リハビリテーションセンター指定管理費（国庫対象）
(2) 院内保育所施設整備費補助事業	院内保育所施設整備費補助
8 新人看護職員研修事業	
(1) 新人看護職員職場内研修事業費補助事業	新人看護職員職場内研修事業費補助

附 則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年7月15日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年9月15日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年10月16日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年12月25日から施行する。

別表 1

事業区分	交付対象者
1 在宅歯科診療所設備整備事業	
(1) 在宅歯科診療所設備整備事業	一般社団法人神奈川県歯科医師会
2 医師等確保体制整備事業	
(1) 総合診療医育成事業	公立大学法人横浜市立大学
(2) 医師事務作業補助者配置事業	公立大学法人横浜市立大学、学校法人北里研究所、学校法人聖マリアンナ医科大学及び学校法人東海大学
3 産科等医師確保対策推進事業	
(1) 産科医師等分娩手当補助事業	県内に所在する分娩施設（ただし、独立行政法人及び県立病院を除く。）の開設者 ^(注1)
(2) 産科等後期研修医手当補助事業	県内に所在する公益社団法人日本産科婦人科学会が指定する専攻医指導施設（ただし、独立行政法人は除く）の開設者 ^(注2)
(3) 帝王切開術対応医師確保事業	県内に所在する帝王切開術を行う分娩施設の開設者
4 病院群輪番制運営費	
(1) 小児救急医療支援事業	市町村 （医療法第7条の規定に基づき許可を受けた病院の開設者 ^(注3) が実施する事業に対し市町村が行う補助事業を含む）
(2) 小児救急医療拠点病院運営事業	知事の要請を受けた病院の開設者
5 在宅歯科研修費	
(1) 在宅歯科口腔咽頭吸引実習事業	特定非営利活動法人神奈川県歯科衛生士会
6 看護師等養成支援事業	
(1) 看護師等養成所運営費補助事業	看護師等養成所 ^(注4) の運営事業を行う次の事業者 1 社会福祉法人（ただし、社会福祉法人恩賜財団済生会及び社会福祉法人北海道社会事業協会は除く） 2 国家公務員共済組合及びその連合会 3 健康保険組合及びその連合会 4 国民健康保険組合及び国民健康保険団体連合会 5 学校法人及び準学校法人

	<p>6 医療法人</p> <p>7 一般社団法人及び一般財団法人</p> <p>ただし、上記のうち6及び7については、学校教育法第124条の規定による「専修学校」又は同法第134条の規定による「各種学校」の認可を受けている者に限るものとする。</p> <p>(ただし、助産師養成所及び看護師養成所2年課程(通信制)にあつてはこの限りではない。)</p>
(2) 看護師等養成所施設整備費補助事業	<p>(ア) 医療法人</p> <p>(イ) 社会福祉法人</p> <p>(ウ) 学校法人及び準学校法人</p> <p>(エ) 一般社団法人及び一般財団法人</p> <p>(オ) 健康保険組合及び健康保険組合連合会</p> <p>(カ) 国民健康保険組合及び国民健康保険団体連合会</p> <p>ただし、(ア)及び(エ)については、学校教育法(昭和22年法律第26号)第124条の規定による「専修学校」又は同法第134条の規定による「各種学校」の認可を受けることのできる看護師等養成所(ただし、助産師養成所及び看護師養成所2年課程(通信制)にあつてはこの限りではない。)</p>
(3) 看護師養成課程再編準備費補助事業	公益社団法人川崎市医師会
7 院内保育所支援事業	
(1) 院内保育事業運営費補助事業	県内に所在する院内保育所を運営する病院等の開設者(公立病院は除く)
(2) 院内保育所施設整備費補助事業	
8 新人看護職員研修事業	
(1) 新人看護職員職場内研修事業費補助事業	県内に所在する新人看護職員研修を実施する病院等 ^(注5) の開設者
9 歯科衛生士・歯科技工士人材養成確保事業	
(1) 歯科技工士養成校設備整備費補助事業	一般社団法人神奈川県歯科医師会
(2) 歯科衛生士・歯科技工士人材養成確保事業費補助事業	一般社団法人神奈川県歯科医師会
(3) 歯科衛生士養成教育設備整備費補助事業	一般社団法人神奈川県歯科医師会
10 在宅医療(薬剤)推進事業費補助	
(1) 訪問薬剤管理指導研修事業費補助	公益社団法人神奈川県薬剤師会

	(2) 褥瘡対策研修事業費補助	公益社団法人神奈川県病院薬剤師会
	(3) 在宅医療用麻薬等円滑供給事業費補助	公益社団法人神奈川県薬剤師会
11	薬剤師復職支援事業費補助	
	(1) 薬剤師復職支援事業費補助（病院薬剤師）	公益社団法人神奈川県病院薬剤師会
	(2) 薬剤師復職支援事業費補助（薬局薬剤師）	公益社団法人神奈川県薬剤師会
12	精神科医療強化事業費	
	(1) 退院支援委員会開催事業費補助	一般社団法人神奈川県精神科病院協会
13	在宅医療施策推進事業	
	(1) 在宅医療トレーニングセンター整備費補助	公益社団法人神奈川県医師会
	(2) 在宅医療トレーニングセンター研修事業費補助	公益社団法人神奈川県医師会
	(3) 在宅医療連携システム導入事業費補助	公益社団法人神奈川県医師会
	(4) 地域在宅医療推進事業費補助	公益社団法人神奈川県医師会
14	在宅歯科医療連携拠点運営事業	
	(1) 要介護者等歯科診療支援事業費補助	一般社団法人神奈川県歯科医師会
15	緩和ケア推進事業	
	(1) 緩和ケア推進事業費補助	緩和ケア病棟を整備している医療機関（「がん診療連携拠点病院」を除く）の開設者
16	病床機能分化・連携推進基盤整備事業	
	(1) 回復期病床転換施設整備費補助	県内に所在する病院の開設者で、知事が適当と認めるもの
17	かかりつけ歯科医普及定着推進事業	
	(1) かかりつけ歯科医普及定着推進事業費補助	一般社団法人神奈川県歯科医師会
18	がん診療口腔ケア推進事業	
	(1) がん診療口腔ケア推進事業費補助	がん診療連携拠点病院及び神奈川県がん診療連携指定病院の開設者
19	産科医師確保支援事業	
	(1) 産科医師確保支援事業費補助	医学部を有する大学のうち、県内に附属病院を有するもの
20	訪問看護師離職防止事業	
	(1) 訪問看護師離職防止事業費補助	横浜市
21	精神科看護職員研修事業	
	(1) 精神科看護職員研修事業費補助	一般社団法人神奈川県精神科病院協会

(注1) 1 就業規則及びこれに類するもの（雇用契約等）において、分娩を取扱う産科医等に対する

る分娩手当等の支給について明記している分娩施設であること。なお、個人が開設する分娩施設においては、当該分娩施設で雇用される産科医等に対する手当の支給について、雇用契約等に明記しているなど、知事が適当を認めた場合は、開設者本人についても対象とする。

- 2 一分娩あたり、一般的に入院から退院までの分娩費用（分娩（管理・介助）料、入院費用、胎盤処理費用及び処置・注射・検査料等をいう。以下同じ。）として徴収する額が55万円未満の分娩施設であること（当該年度の正常分娩の金額を適用する。）。なお、妊産婦が任意で選択できる付加サービス料等については含めない。
- 3 補助事業者が、神奈川県周産期救急医療事業実施要綱に定める周産期救急患者受入病院（以下「周産期救急医療システム参加病院」という。）の開設者の場合は、知事がその開設者に対して交付する。
- 4 補助事業者が、周産期救急医療システム参加病院以外の分娩施設の開設者の場合は、市町村長を間接補助先として交付する。

(注2) 1 補助対象年度において、医師法（昭和23年法律第201号）第16条の2第1項に規定する臨床研修終了後、産婦人科専門医の取得を目的として、指導医の下、研修カリキュラムに基づき研修を受けている者（産婦人科専攻医）を受入れている医療機関であること。

2 就業規則及びこれに類するもの（雇用契約等）において、産科専攻医の処遇改善を目的とした手当（研修医手当等）の支給について明記している医療機関であること。

(注3) 地方自治法（昭和22年法律第67号）第1条の3に規定する地方公共団体及び地方独立行政法人法（平成15年法律第118号）第2条第1項に規定する地方独立行政法人又は第2項に規定する特定地方独立行政法人、並びに公的団体を除く。（以下、「民間病院」という。）

(注4) 1 看護師等養成所とは、保健師助産師看護師学校養成所指定規則（昭和26年文部・厚生省第1号。以下「指定規則」という。）により文部科学大臣、厚生労働大臣または知事が指定した保健師、助産師、看護師及び准看護師の学校または養成所という。（ただし、学校教育法第1条に規定する学校は除く、以下「養成所」という。）

2 助産師養成所とは指定規則第3条に規定する養成所をいう。

3 看護師（3年課程）養成所とは指定規則第4条第1項に規定する養成所をいう。

4 看護師（2年課程）養成所とは指定規則第4条第2項に規定する養成所をいう。

5 准看護師養成所とは指定規則第5条に規定する養成所をいう。

(注5) 病院等とは、看護師等の人材確保の促進に関する法律（平成4年法律第86号）第2条第2項に規定する病院等をいう。

別表 2

事業区分	基準額	補助対象経費	補助率
1-(1) 在宅歯科診療所 設備整備事業	1 設備整備費 1 か所あたり1,334千円 2 在宅歯科医療推進委員会開 催経費 312千円	1 在宅歯科医療に必要な機器 購入費 2 在宅歯科医療推進委員会開 催に必要な報償費	4分の3
2-(1) 総合診療医育成 事業	知事が適当と認めた額	総合診療専門医育成のために必要 な経費（報酬、給与、職員手当 等、法定福利費、共済費、賃金、 報償費、旅費、需用費、備品購入 費（単価50万円未満の総合診療医 学教室用備品に限る。）	4分の3
2-(2) 医師事務作業補助 者配置事業	医師事務作業補助者1人あたり 日額 9,080円（ただし、1人あ たり 2,398千円、1か所あたり 2,398千円×基準配置数を限度と する。） （注） 基準配置数：特定機能病院の病 床数を100で割った数（小数点第 1位を四捨五入）	特定機能病院の病床数比で100対1 （小数点第1位を四捨五入）以上の 医師事務作業補助者を特定機能病 院に配置するために必要な人件費	3分の1
3-(1) 産科医師等分娩 手当補助事業	1 分娩あたり10千円	分娩を取扱う産科医等に対して処 遇改善を目的として分娩件数に応 じて支給される手当（分娩手当 等）	3分の1
3-(2) 産科等後期研修 医手当補助事業	産科等研修医手当 研修医1人1月あたり50千円	知事が適当と認める卒後研修施設 で臨床研修終了後、指導医の下、 研修カリキュラムに基づき産科・ 産婦人科の研修を受けている研修 医に対して処遇改善を目的として 支給される手当（研修医手当等）	3分の1
3-(3) 帝王切開術対応 医師確保事業	1 施設あたり750,000円 （@5,000円/1回×150日） ただし、1年に満たない場合 は、 750,000円×実施日/365日 （1,000円未満の端数は切り捨 て）	次の1から5の経費の合計額とす る。 1 帝王切開術に待機する対価と して産科医師に支払う手当、報 酬、賃金、謝金、礼金 2 帝王切開術に待機する産科医 師を確保するため、連携医療機	3分の1

		<p>関との調整に必要な旅費、通信運搬費</p> <p>3 帝王切開術に待機する産科医師を確保するため、仲介業者との調整に必要な旅費、通信運搬費</p> <p>4 帝王切開術に待機する産科医師を確保するため、仲介業者に依頼する場合の仲介料、あっせん料</p> <p>5 その他帝王切開術に待機する産科医師を確保するために必要な経費のうち知事が認めたもの</p>	
4-(1) 小児救急医療支援事業	<p>別添1に基づき、次の1から4により算出された額の合計額とする。</p> <p>1 休日A、休日B及び夜間 1 地区当たり 26,310円×診療日数</p> <p>2 休日C 1 地区あたり 13,150円×診療日数</p> <p>3 夜間加算(労働基準法第37条第1項及び第4項に定める割増賃金(時間外(125/100以上)及び深夜(150/100、160/100又は125/100以上))を手当している場合に限る。) 1 地区当たり 19,782円×診療日数</p> <p>4 小児救急電話相談実施加算(休日A、休日B、休日C又は夜間において、小児救急電話相談を実施している場合に限る。) 1 地区当たり 14,838円×診療日数</p> <p>(注)</p>	<p>小児救急医療支援事業に必要な経費(給与費(常勤職員給与費、非常勤職員給与費、法定福利費等)、報償費(医師雇上謝金))</p>	3分の2

	<p>1 診療日の設定方法については、別添2に定めるところによるものとする。</p> <p>2 診療日数は、別表3に定める地区における事業日数とする。</p>		
4-(2) 小児救急医療拠点病院運営事業	<p>別添1に基づき、1か所あたり次の1から3により算出された額の合計額とする。</p> <p>1 35,926千円×運営月数/12</p> <p>2 夜間加算(労働基準法第37条第1項及び第4項に定める割増賃金(時間外(125/100以上)及び深夜(150/100、160/100又は125/100以上))を手当している場合に限る。)</p> <p>3,520千円×運営月数/12</p> <p>3 小児救急電話相談実施加算(神奈川県が委託等により小児救急電話相談(#8000)を実施している場合に限る。)</p> <p>6,781千円×運営月数/12</p>	小児救急医療拠点病院運営事業に必要な経費(給与費(常勤職員給与費、非常勤職員給与費、法定福利費等)、報償費(医師雇上謝金))	10分の10
5-(1) 在宅歯科口腔咽喉吸引実習事業	1回あたり419,000円	口腔咽喉吸引に関する実習を行うのに必要な経費(報償費、旅費、需用費(消耗品費、光熱水費)、役務費(通信運搬費)、委託料、使用料及び賃借料)	4分の3
6-(1) 看護師等養成所運営費補助事業	<p>次に掲げる課程ごとの基準額A及び基準額Bの合計額とする。</p> <p>1 看護師(3年課程)養成所</p> <p>【全日制】</p> <p>(1) 基準額A</p> <p>次のア、イ、ウ、エの合計額に別表4に定める調整率を乗じて得た額</p> <p>ア 養成所1か所あたり</p> <p>16,178,000円</p> <p>イ 総定員が120人を超える</p>	<p>看護師養成所の運営費に必要な経費(下記5、6に係る経費は別添3のとおりとする。)</p> <p>1 教員経費</p> <p>(1) 専任教員給与</p> <p>(2) 専任教員人当庁費、需用費(消耗品費、印刷製本費)、備品購入費、役務費(通信運搬費)、福利厚生費</p> <p>(3) 部外講師謝金</p> <p>(4) 委託料(上記教員経費のうち</p>	10分の10

	<p>養成所において専任教員分として定員30人増すごとに 1,842,000円</p> <p>ウ 事務職員分として1か所あたり536,000円</p> <p>エ 生徒数に1人あたり 15,500円を乗じ得た額</p> <p>(2) 基準額B 次のア及びイの合計額</p> <p>ア 新任看護教員研修事業実施施設について受講者1人あたり340,000円</p> <p>イ 看護教員養成講習会参加促進事業実施施設について受講者1人あたり147,000円</p> <p>【全日制であって4年間で教育を行うもの及び定時制】</p> <p>(1) 基準額A 次のア、イ、ウ、エの合計額に別表4に定める調整率を乗じて得た額</p> <p>ア 養成所1か所あたり 12,134,000円</p> <p>イ 総定員が120人を超える養成所において専任教員分として定員30人増すごとに 1,381,000円</p> <p>ウ 事務職員分として1か所あたり402,000円</p> <p>エ 生徒数に1人あたり 15,500円を乗じて得た額</p> <p>(2) 基準額B 次のア及びイの合計額</p> <p>ア 新任看護教員研修事業実施施設について受講者1人あたり340,000円</p> <p>イ 看護教員養成講習会参加促進事業実施施設について</p>	<p>(1)～(3)に該当するものとする。))</p> <p>2 事務職員経費 (1) 専任事務職員給与費 (2) 委託料 (上記専任事務職員給与費とする。)</p> <p>3 生徒経費 (1) 事業用教材費 (2) 臨床実習経費 (消耗機材に要する経費) (3) 委託料 (上記生徒経費のうち(1)及び(2)に該当するものとする。)</p> <p>4 実習施設謝金 (1) 報償費 (実習施設謝金) (2) 委託料 (上記報償費とする。)</p> <p>5 新任看護教員研修事業実施経費 (部外講師謝金、部外講師旅費、需用費 (消耗品費、印刷製本費、会議費)、役務費 (通信運搬費、雑役務費)、備品購入費)</p> <p>6 看護教員養成講習会参加促進事業実施経費 (部外講師謝金、部外講師旅費、代替教員雇上経費)</p>	
--	--	---	--

	<p>受講者 1 人あたり 147,000円</p> <p>2 看護師(2年課程)養成所</p> <p>【全日制】</p> <p>(1) 基準額A</p> <p>次のア、イ、ウ、エの合計額に別表4に定める調整率を乗じて得た額</p> <p>ア 養成所 1 か所当たり 13,889,000円</p> <p>イ 総定員が80人を超える養成所において専任教員分として定員30人増すごとに 1,842,000円</p> <p>ウ 事務職員分として1か所当たり536,000円</p> <p>エ 生徒数に1人あたり 17,600円を乗じて得た額</p> <p>(2) 基準額B</p> <p>次のア及びイの合計額</p> <p>ア 新任看護教員研修事業実施施設について受講者1人あたり340,000円</p> <p>イ 看護教員養成講習会参加促進事業実施施設について受講者1人当たり147,000円</p> <p>【定時制】</p> <p>(1) 基準額A</p> <p>次のア、イ、ウ、エの合計額に別表4に定める調整率を乗じて得た額</p> <p>ア 養成所 1 か所あたり 10,417,000円</p> <p>イ 総定員が120人を超える養成所において専任教員分として定員30人増すごとに 1,381,000円</p> <p>ウ 事務職員分として1か所あたり 402,000円</p>		
--	---	--	--

	<p>エ 生徒数に1人当たり 17,600円を乗じて得た額</p> <p>(2) 基準額B 次のア及びイの合計額</p> <p>ア 新任看護教員研修事業実施施設について受講者1人あたり340,000円</p> <p>イ 看護教員養成講習会参加促進事業実施施設について受講者1人当たり147,000円</p> <p>3 准看護師養成所</p> <p>(1) 基準額A 次のア、イ、ウ、エの合計額に別表4に定める調整率を乗じて得た額</p> <p>ア 養成所1か所あたり 8,080,000円</p> <p>イ 総定員が80人を超える養成所において専任教員分として定員30人増すごとに 1,842,000円</p> <p>ウ 事務職員分として1か所あたり536,000円</p> <p>エ 生徒数に1人当たり 13,100円を乗じて得た額</p> <p>(2) 基準額B 次のア及びイの合計額</p> <p>ア 新任看護教員研修事業実施施設について受講者1人あたり340,000円</p> <p>イ 看護教員養成講習会参加促進事業実施施設について受講者1人あたり147,000円</p> <p>(注)</p> <p>1 総定員は、生徒が在籍しない学年も含む全学年の定員数</p>		
--	---	--	--

	<p>とする。</p> <p>2 事務職員は、1 学年定員80 人以上の養成所において、庶務、会計、教務、図書管理等の事務に2人以上専任としての位置付けがなされている場合に限る。</p> <p>3 生徒数は、当該年度の4月15日現在における人員又は生徒が実在する学年の定員のいずれか少ない方とする。</p>		
6-(2) 看護師等養成所 施設整備費補助 事業	<p>次に掲げる基準面積に別表5に定める単価を乗じた額とする。</p> <p>基準面積</p> <p>(1) 新築の場合 保健師、助産師、看護師の学校又は養成所 学生定員×20 m² (ただし、2年課程(通信制)は3 m²)</p> <p>(2) 増築の場合 新築の場合に準じて算定した面積 ただし、既存面積と増築面積との合計面積は、上記(1)の例により算定した場合の面積を超えることはできない。</p> <p>(3) 改築(移改築及び模様替えを含む。)の場合 当該施設の既存面積 ただし、上記(1)の例により算定した場合の面積を超えることはできない。</p> <p>(4) 男子学生の受入れに必要な更衣室等を整備する場合は、上記(2)又は(3)により算定した面積に16.2 m²を限度として</p>	学校又は養成所(寄宿舎を含む。)の新築、増改築に要する工事費又は工事請負費	2分の1

	<p>加算した面積 (注)</p> <p>1 過去に同一事業について補助を受け、現に使用しているときは、基準面積（基準面積が定められていないときは基準額とする。）から当該補助の際の基準面積を差し引いた面積を基準面積とする。</p> <p>2 建築面積が基準面積を下回るときは、当該建築面積を基準面積とする。</p>		
6-(3) 看護師養成課程 再編準備費補助 事業	<p>看護師養成のあり方の検討会経費 2,174千円</p>	<p>川崎市における看護師養成のあり方の検討に必要な報酬、報償費、賃金、旅費、需用費（消耗品費、印刷製本費、会議費）、役務費、委託料、使用料及び賃借料</p>	4分の3
7-(1) 院内保育事業運 営費補助事業	<p>原則12か月運営し、かつ保育料として1人当たり平均月額10,000円以上徴収している各病院内保育施設につき、1により算定した基本額より別添4に定める保育料収入相当額を控除した額に、病院内保育施設の運営に係る設置者の負担能力指数による調整率を乗じて得た額と、2により算定した加算額の合計額に0.42 (ただし、公的病院については0.336)を乗じて得た額とする。</p> <p>1 基本額</p> <p>(1) A型特例 1人×180,800円×運営 月数</p> <p>(2) A型 2人×180,800円×運営月 数</p> <p>(3) B型</p>	<p>病院内保育所の運営（運営については、児童福祉施設最低基準（昭和23年厚生省令第63号）を尊重する。）に必要な給与費（常勤職員給与費、非常勤職員給与費、法定福利費等）、委託料（上記経費に該当するもの。）</p>	3分の2

	<p>4人×180,800円×運営月数</p> <p>(4) B型特例</p> <p>6人×180,800円×運営月数</p> <p>2 加算額</p> <p>(1) 24時間保育を行っている施設</p> <p>23,410円×運営日数</p> <p>(2) 病児等保育を行っている施設</p> <p>187,560円×運営月数</p> <p>(3) 緊急一時保育を行っている施設</p> <p>20,720円×運営日数</p> <p>(4) 児童保育を行っている施設</p> <p>10,670円×運営日数</p> <p>(5) 休日保育を行っている施設</p> <p>11,630円×運営日数</p> <p>(休日とは、日曜日、祝日並びに12月29日から翌年1月3日をいう。)</p> <p>(注)</p> <p>1 運営月数の算定に当たっては、その月における開所日数がおおむね15日以上である場合には1か月として算定して差し支えないものとし、また保育料とは保育に要する費用の保護者負担額(給食費を含む)をいう。</p> <p>2 A型特例とは、児童1人以上、保育時間8時間以上で保育士等職員2人以上を有するものをいう。</p> <p>3 A型とは、児童4人以上、保育時間8時間以上で保育士等職員2人以上を有するもの</p>		
--	--	--	--

	<p>をいう。</p> <p>4 B型とは、児童10人以上、保育時間10時間以上で保育士等職員4人以上を有するものをいう。</p> <p>5 B型特例とは、児童30人以上、保育時間10時間以上で保育士等職員10人以上を有するものをいう。</p> <p>6 24時間保育、病児等保育、緊急一時保育、児童保育、休日保育とは別添5のとおりとする。</p>		
7-(2) 院内保育所施設整備費補助事業	<p>次に掲げる基準面積に別表5に定める単価を乗じた額とする。</p> <p>基準面積 収容定員×5㎡</p> <p>ただし、30人を限度とする。</p> <p>(注)</p> <p>1 過去に同一事業について補助を受け、現に使用しているときは、基準面積（基準面積が定められていないときは基準額とする。）から当該補助の際の基準面積を差し引いた面積を基準面積とする。</p> <p>2 建築面積が基準面積を下回るときは、当該建築面積を基準面積とする。</p>	<p>病院内保育所（施設、設備及び運営について、児童福祉施設最低基準（昭和23年厚生省令第63号）を尊重する。）として必要な新築、増改築及び改修（既存の病院内保育所の改修は除く。）に要する工事費又は工事請負費</p>	0.33
8-(1) 新人看護職員職場内研修事業費補助事業	<p>次の1から3により算出された額の合計額とする。</p> <p>1 研修経費</p> <p>(1) 新人看護職員等が1名のとき 440千円 (ただし、新人保健師研修・新人助産師研修のいずれかを含む場合586千円)</p> <p>(2) 新人看護職員等が2名以上</p>	<p>下記に係る経費は別添6とおりとする。</p> <p>1 新人看護職員研修事業の実施に必要な研修責任者経費（謝金、人件費、手当）、報償費、旅費、需用費（印刷製本費、消耗品費、会議費、図書購入費）、役務費（通信運搬費、雑役務費）、使用料及び賃借料、</p>	2分の1

	<p>のとき 630千円 (ただし、新人保健師研修・新人助産師研修のいずれかを含む場合776千円、新人保健師研修・新人助産師研修の両方を含む場合922千円とする。)</p> <p>2 教育担当者経費新人看護職員等5名以上の場合に5名ごとに215千円</p> <p>(注) 新人看護職員数等の人数は、当該年度の4月末日現在に在職している新人看護職員、新人保健師及び新人助産師であって、それぞれの研修に参加する人数とし、上限を70名とする。 なお、新人看護職員研修、新人保健師研修又は新人助産師研修の複数の研修を実施する施設において、複数の研修に参加する者は1名として計上する。</p> <p>3 医療機関受入研修事業</p> <p>(1) 1名～4名を受け入れた場合 1施設当たり 113千円</p> <p>(2) 5名～9名を受け入れる場合 1施設当たり 226千円</p> <p>(3) 10名～14名を受け入れる場合 1施設当たり 566千円</p> <p>(4) 15～19名を受け入れる場合 1施設当たり 849千円</p> <p>(5) 20名以上受け入れる場合 1施設当たり 1,132千円</p> <p>(6) 受け入れる新人看護職員数が20名を超える場合</p>	<p>備品購入費、賃金（外部の研修参加に伴う代替職員経費）</p> <p>2 新人看護職員研修事業の実施に必要な教育担当者経費（謝金、人件費、手当）</p> <p>3 医療機関受入研修事業の実施に必要な教育担当者経費（謝金、人件費、手当）、需用費（消耗品費、印刷製本費、会議費、図書購入費）、役務費（通信運搬費、雑役務費）、使用料及び賃借料、備品購入費</p>	
--	---	--	--

	<p>1名増すごとに45千円 (注)</p> <p>1 医療機関受入研修事業は複数月で実施すること。</p> <p>2 医療機関受入研修事業における受入人数については、1人当たり年間40時間で1人とし、上限は30人とする。なお、1人40時間に満たない場合は、複数人で40時間となれば1人とする。</p>		
9-(1) 歯科技工士養成校設備整備費補助事業	<p>設備整備費 1か所あたり 9,000千円</p>	<p>歯科技工士養成校における学生や現任者への新たな教育に必要な機器購入費 ・CAD/CAMシステム</p>	4分の3
9-(2) 歯科衛生士・歯科技工士人材養成確保事業費補助事業	<p>1 歯科衛生士・歯科技工士の業務内容の普及啓発事業の実施経費 知事が適当と認めた額</p> <p>2 歯科衛生士への研修事業 1回あたり 190千円</p>	<p>1 歯科衛生士・歯科技工士の業務内容の普及啓発事業に必要な経費（報償費、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料）</p> <p>2 気管内吸引設備や生体モニター、自動体外除細動器を用いた学生や現任者への在宅歯科医療に関する研修の実施に必要な経費（報償費、旅費、需用費、役務費、委託料、使用料及び賃借料）</p>	4分の3
9-(3) 歯科衛生士養成教育設備整備費補助事業	<p>1 設備整備費 1か所あたり 12,340千円</p> <p>2 設備整備費 1か所あたり 10,728千円</p>	<p>1 気管内吸引設備を用いた学生や現任者への在宅歯科医療に関する研修の実施に必要な機器購入費</p> <p>2 生体モニター及び自動体外式除細動器を用いた学生や現任者への在宅歯科医療に関する研修の実施に必要な機器購入費</p>	4分の3
10-(1) 訪問薬剤管理指導研修事業費補助	<p>1 研修の実施 1回あたり57千円</p> <p>2 在宅対応できる薬局のリス</p>	<p>1 訪問薬剤管理指導に関する研修の実施に必要な経費（報償費、旅費、需用費、使用料及び</p>	4分の3

助	トの作成等 448千円	賃借料) 2 訪問薬剤管理指導に関する薬局リストの作成等に必要な経費(需用費、役務費)	
10-(2) 褥瘡対策研修事業費補助	研修の実施 208千円	褥瘡対策に関する研修の実施に必要な経費(報償費、旅費、需用費、役務費、使用料及び賃借料)	4分の3
10-(3) 在宅医療用麻薬等円滑供給事業費補助	1 研修の実施 690千円 2 リスト作成等 790千円	1 医療用麻薬及び衛生材料等円滑供給推進のための研修の実施に必要な経費(報償費、旅費、需用費、役務費、使用料及び賃借料) 2 医療用麻薬及び衛生材料等円滑供給推進のためのリスト作成等に必要な経費(需用費、役務費)	4分の3
11-(1) 薬剤師復職支援事業費補助(病院薬剤師)	研修の実施 1回あたり300千円	薬剤師復職支援に関する研修の実施に必要な経費(報償費、旅費、需用費、役務費、使用料及び賃借料)	4分の3
11-(2) 薬剤師復職支援事業費補助(薬局薬剤師)	1 委員会の開催 129千円 2 研修の実施 1回あたり171千円	1 薬剤師復職支援に関する委員会の開催に必要な経費(報償費、旅費、需用費、役務費) 2 薬剤師復職支援に関する研修の実施に必要な経費(報償費、需用費、役務費、使用料及び賃借料)	4分の3
12-(1) 退院支援委員会開催事業費補助	1 退院支援委員会への出席 1回あたり10千円 2 事務職員人件費 知事が適当と認めた額	1 報償費 医療保護入院者退院支援委員会に出席する当該医療保護入院者の退院後の生活環境に関わる地域の医師、地域援助事業者の所属先への謝礼 2 当事業の支払い等の事務にあたる職員の賃金、法定福利費等	4分の3
13-(1) 在宅医療トレーニングセンター	設備整備及び初度調弁費 11,575千円	医療従事者、介護従事者等への在宅医療に関する研修に必要な設備整備費及び初度調弁費(備品購入	10分の10

整備費補助		費、設置経費等)	
13-(2) 在宅医療トレーニングセンター 研修事業費補助	研修の実施 11,557千円	医療従事者、介護従事者等への在宅医療に関する研修の実施及び研修施設の運営等に必要な経費（人件費、報償費、旅費、需用費、役務費、使用料及び賃借料）	10分の10
13-(3) 在宅医療連携システム導入事業費補助	1か所あたり 40,000千円	在宅医療連携システム導入に必要な初期費用（サーバ導入費用、保守費用等）	10分の10
13-(4) 地域在宅医療推進事業費補助	研修、普及啓発等の実施 7,005千円	地域における在宅医療の推進に資する研修、普及啓発等の事業の実施に係る経費（賃金、報償費、需用費、役務費、使用料及び賃借料等）	4分の3
14-(1) 要介護者等歯科診療支援事業費補助	1時間あたり 12,500円 (ただし、診療時間数は288時間(4時間×72日)を限度とする。) (注) 診療時間数に12,500円を乗じた額と、12,500円に要介護3以上の患者の診療人数を乗じた額を比較し、いずれか少ない方の額とする。	要介護者等歯科診療支援事業の診療体制に必要な経費（人件費）	4分の3
15-(1) 緩和ケア推進事業費補助	次の1から2により算出された額の合計額とする。 1 研修事業 1か所あたり 284千円 2 ネットワーク事業 1か所あたり 124千円	1 研修事業 緩和ケアの概要、理解促進による人材育成を目的とした研修の実施に必要な経費（報償費、需用費、役務費、使用料及び賃借料） 2 ネットワーク事業 多種多業種連携により、地域の緩和ケアの充実を担う人材育成のために、ケーススタディによる地域連携の事例検証等に必要な経費（報償費、需用費、役務費、使用料及び賃借料）	4分の3

<p>16-(1) 回復期病床転換 施設整備費補助</p>	<p>新築・増改築 1床あたり 4,540千円 改修 1床あたり 3,333千円</p>	<p>「基本診療料の施設基準等」（平成20年厚生労働省告示第62号）に定める「回復期リハビリテーション病棟入院料の施設基準等」又は「地域包括ケア病棟入院料の施設基準等」を満たす施設を整備するために必要な新築・増改築及び改修に要する工事費又は工事請負費 ただし、次に掲げる費用を除く。 (1) 土地の取得又は整地に要する費用 (2) 外溝工事及び造園工事に要する費用 (3) 設計業務、監理業務に要する費用 (4) 既存建物の買収に要する費用 (5) 新築工事の場合の既存建物の解体工事に要する費用 (6) 病棟を維持するための維持修繕に要する費用 (7) その他整備費として適当と認められない費用</p>	<p>4分の3</p>
<p>17-(1) かかりつけ歯科 医普及定着推進 事業費補助</p>	<p>歯科検診、相談の実施 718千円</p>	<p>歯科検診及び歯科相談の実施に必要な経費（報償費、需用費、役務費、使用料及び賃借料、備品購入費等）</p>	<p>4分の3</p>
<p>18-(1) がん診療口腔ケ ア推進事業費補 助</p>	<p>1か所あたり 172千円</p>	<p>がん患者の口腔ケアに関する研修の実施に必要な経費（報償費、需用費、役務費、使用料及び賃借料）</p>	<p>4分の3</p>
<p>19-(1) 産科医師確保支 援事業費補助</p>	<p>研修1回あたり500千円 ただし、1か所あたり1,000千円を限度とする。</p>	<p>医学生や初期研修医を対象とした産科医師確保のための研修会の実施に必要な経費（報償費、旅費、需用費、役務費、使用料及び賃借料） ただし、県内の医療機関で勤務</p>	<p>4分の3</p>

		する産科医師の確保に係る経費に限る。	
20-(1) 訪問看護師離職防止事業費補助	研修の実施 800千円	訪問看護に従事する看護職員の離職防止研修の実施に必要な経費（報償費、需用費、役務費等）	4分の3
21-(1) 精神科看護職員研修事業費補助	研修の実施 401千円	精神科看護職員への認知行動療法に関する研修の実施に必要な経費（報償費、需用費、役務費、使用料及び賃借料）	4分の3

別表 3

	地 区 名	対 象 市 区 町 村
小児救急医療支援事業	横浜市北部	鶴見区、神奈川区、港北区、緑区、青葉区、都筑区
	横浜市西部	西区、保土ヶ谷区、旭区、戸塚区、泉区、瀬谷区
	横浜市南部	中区、南区、港南区、磯子区、金沢区、栄区
	川崎市北部	高津区、宮前区、多摩区、麻生区
	川崎市南部	川崎区、幸区、中原区
	三浦半島	横須賀市、逗子市、三浦市、葉山町
	平塚・中郡	平塚市、大磯町、二宮町
	秦野・伊勢原	秦野市、伊勢原市
	厚木	厚木市、愛川町、清川村
	県央	大和市、海老名市、座間市、綾瀬市
	相模原	相模原市
	西湘	小田原市、南足柄市、中井町、大井町、松田町、山北町、開成町、箱根町、真鶴町、湯河原町
病院運営 小児救急 医療拠点	東湘	藤沢市、茅ヶ崎市、寒川町
	鎌倉	鎌倉市

(様式1)

文 書 番 号
平成〇〇年〇〇月〇〇日

神奈川県知事 殿

補助事業者 住 所
法人(団体)名
代表者氏名 印

平成〇〇年度神奈川県地域医療介護総合確保基金事業費補助金交付申請書

このことについて、次のとおり関係書類を添えて申請します。

- 1 補助事業名 〇〇〇〇〇〇〇〇事業
- 2 交付申請額 金〇〇〇, 〇〇〇, 〇〇〇円
- 3 所要額調書 (別に定める様式のとおり)
- 4 事業計画書 (別に定める様式のとおり)
- 5 所要額明細書 (別に定める様式のとおり)
- 6 添付書類
 - (1) 当該事業に係る歳入歳出予算書の抄本
(当該補助事業に係る予算額を備考欄に記入すること。)
 - (2) 役員等氏名一覧表(様式1付表)
※補助事業者が地方公共団体の場合は提出を要しない。
 - (3) その他参考となる資料

問い合わせ先
〇〇部〇〇課 〇〇
電話〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇
メールアドレス〇〇〇〇@〇〇〇〇

(様式1付表)

役員等氏名一覧表

役職名	氏名	氏名のカナ	生年月日 (大正T, 昭和S, 平成H)	性別 (男・女)	住所

平成 年 月 日現在

記載された全ての者は、申請者、代表者又は役員に暴力団員がないことを確認するため、本様式に記載された情報を神奈川県警察本部に照会することについて、同意しております。

法人(団体)名

代表者氏名

印

- (注) (1) 補助事業者が個人の場合、申請者について記載
(2) 補助事業者が法人の場合、代表者及び全ての役員について記載
(3) 補助事業者が法人格を持たない団体の場合、当該団体の代表者について記載

(様式2)

文 書 番 号
平成〇〇年〇〇月〇〇日

神奈川県知事 殿

補助事業者 住 所
法人(団体)名
代表者氏名

印

平成〇〇年度神奈川県地域医療介護総合確保基金事業費補助金変更交付申請書

このことについて、次のとおり関係書類を添えて申請します。

- 1 補助事業名 〇〇〇〇〇〇〇〇事業
- 2 変更交付申請額 金〇〇〇, 〇〇〇, 〇〇〇円
(前回交付申請額 金〇〇〇, 〇〇〇, 〇〇〇円)
- 3 所要額調書 (別に定める様式のとおり)
- 4 事業計画書 (別に定める様式のとおり)
- 5 所要額明細書 (別に定める様式のとおり)
- 6 添付書類
 - (1) 当該事業に係る歳入歳出予算書の抄本
(当該補助事業に係る予算額を備考欄に記入すること。)
 - (2) その他参考となる資料

問い合わせ先

〇〇部〇〇課 〇〇

電話〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

メールアドレス〇〇〇〇@〇〇〇〇

(様式4)

文 書 番 号
平成〇〇年〇〇月〇〇日

神奈川県知事 殿

補助事業者 住 所
法人(団体)名
代表者氏名 印

平成〇〇年度神奈川県地域医療介護総合確保基金事業費補助金事業実施状況報告書

平成〇〇年〇〇月〇〇日に依頼のありました標記補助金につきまして、神奈川県地域医療介護総合確保基金事業費補助金交付要綱第8条に基づき、平成〇〇年〇〇月〇〇日現在の補助事業の遂行状況について報告します。

- 1 事業名 〇〇〇〇〇〇〇〇事業
- 2 補助事業の執行状況
- 3 補助事業経費の執行状況
- 4 添付書類 (別に定める様式のとおり)

問い合わせ先
〇〇部〇〇課 〇〇
電話〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇
メールアドレス〇〇〇〇@〇〇〇〇

注：支出の根拠としない場合には押印不要

(様式5)

文 書 番 号
平成〇〇年〇〇月〇〇日

神奈川県知事 殿

補助事業者 住 所
法人(団体)名
代表者氏名 印

平成〇〇年度神奈川県地域医療介護総合確保基金事業費補助金事業実績報告書

平成〇〇年〇〇月〇〇日付けで交付決定があった標記補助金について、次のとおり関係書類を添えて報告します。

- 1 補助事業名 〇〇〇〇〇〇〇〇事業
- 2 経費精算額調書 (別に定める様式のとおり)
- 3 事業実績報告書 (別に定める様式のとおり)
- 4 事業実績額明細書 (別に定める様式のとおり)
- 5 添付書類
 - (1) 当該事業に係る歳入歳出決算(見込み)書の抄本
(当該補助事業に係る決算額を備考欄に記入すること。)
 - (2) その他参考となる資料

問い合わせ先
〇〇部〇〇課 〇〇
電話〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇
メールアドレス〇〇〇〇@〇〇〇〇

